

NGU 教養スタンダード

NGU 教養スタンダード

本学のカリキュラムの特色のひとつとして、どの学部の学生でも学べる《NGU 教養スタンダード科目》を開設しています。《NGU 教養スタンダード科目》は、現代社会で生きていくために必要な知識と技術をしっかり身につけ、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てるために、次のような3つの目標を掲げて、カリキュラムを編成しています。

- キリスト教主義にもとづいた豊かな人格の形成
- 社会生活に必要な知識や技術の修得
- 成熟した市民として必要な教養の養成

NGU 教養スタンダード科目の構成

キリスト教に関する科目

＜キリスト教＞に関する科目は、キリスト教主義大学である本学の核心です。必修科目の「キリスト教概説」「キリスト教学」では、世界の文明に大きな役割を果たしたキリスト教を、人間、歴史、社会、生命などとの関わりにおいて考え、世界に通用するしっかりとした人間観・世界観を築く足がかりとします。

自己理解と自己開発に関する科目

1 年生の必修科目である「基礎セミナー」では、少人数クラスで「大学で学ぶことの意義」について理解し、有意義な大学生活を送る足がかりを形成することを目的としています。さらに、大学での学びを促進させるスキルの習得をめざして、授業を受ける技術、プレゼンテーションの技法、情報検索の方法など、2 年次以上のゼミナール活動の基本となるスキルについて学ぶことを目標としています。また、「キャリアデザイン 1a～3b」などの科目を配置して、「将来なりたい自分とは何か」についてしっかりとしたイメージを養うとともに、職業を考え将来のキャリアを設計するための足がかりとします。

社会的教養に関する科目

＜人間理解＞、＜社会理解＞、＜自然理解＞、＜歴史文化理解＞、＜環境理解＞、＜身体理解＞、＜地域理解＞

自分で考える力を養い、深みのある人間性を身につけるためには専門の学修だけでなく、一般教養の修得が欠かせません。文学、哲学、心理学を学ぶ＜人間理解＞、社会のしくみを考える＜社会理解＞、自然をさまざまな角度からながめる＜自然理解＞、人間や世界の文化や歴史を学ぶ＜歴史文化理解＞、地球環境や生態系について考察する＜環境理解＞、スポーツの実技と理論、健康について学ぶ＜身体理解＞、まちづくりを多様な視点から考える＜地域理解＞の中から、バランスのよい履修を心がけてください。

言語とコミュニケーションに関する科目

外国語については、「英語」、「ドイツ語」、「フランス語」、「スペイン語」、「中国語」、「韓国語」の6カ国語を学ぶことができます（リハビリテーション学部、スポーツ健康学部は英語科目のみ）。また、「手話」や「日本語表現上級」も学修することができます。

情報理解に関する科目

情報教育の充実、本学の大きな特色です。全学生にノートパソコンを配付し、すべての学生がコンピュータを使って学べるように指導しています。必修科目の「情報処理基礎」では、コンピュータやネットワークの基本的な利用方法を半年間でマスターします。

教職に関する科目

ここに配置されている科目は教員免許取得をめざして教職課程に加入している者だけが受講できる科目です。実際に教員免許を取得するためには、教職課程履修規程にもとづき、この領域の科目に加えて、その他の指定された科目を履修する必要があります。

科目表の見方

各学部学科の科目表（P70以降）は以下の構成であらわしています。

- 授業科目名：その科目の名称をあらわしています。
- 単位数：その科目の単位数をあらわしています。
「1」と表記されていたら1単位科目であり、「2」と表記されていたら2単位科目となります。
- 配当年次：その科目が受講できる年次をあらわしています。
「2」と表記されていたら、2年生以上の学生が履修することができます。
- ナンバリング：その科目の科目ナンバーをあらわしています。
- 必修、選択：その科目が必修科目であるのか、選択科目であるのかをあらわしています。
必修の欄に単位数が記載されていたら、その科目は必修科目となります。
- 選択必修科目：この欄に選択必修科目について記載をしています。
- 卒業要件：その学部学科の卒業要件をあらわしています。

地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）

大学 COC 事業に関する 4 年間の学修について

文部科学省は現在、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」を通じて、全学的に地域と連携した教育・研究・社会貢献に取り組む大学を支援しています。2013 年 8 月、名古屋学院大学は同事業に採択され、学生みなさんが地域のことに興味関心を抱き、学修意欲を高められるカリキュラムを充実させました。これにより、企業が必要とする「社会人基礎力」が高まり、4 年後の就職にも有利となることをめざしています。

※ COC は Center of Community の略で、地域再生の核となる大学の意味です。

名古屋学院大学の取り組みの概要

本学の COC 事業はキャンパスの立地する名古屋市および瀬戸市を対象とし、両市が抱える地域の課題について、「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」のまちづくりを通じて解決をめざすものです。

「地域商業まちづくり」・・・商店街活性化などを通じて地域経済効果の増大をめざします。
 「歴史観光まちづくり」・・・歴史の掘起しや地域資源の発掘により歴史観光を推進します。
 「減災福祉まちづくり」・・・災害に強いひとづくり・まちづくりをめざします。

学生みなさんは、下図に示すカリキュラムにより、行政や地域（住民・企業・団体）とも連携・協力しながら学修を進めていきます。これらの授業においては、教室内での学修はもちろんですが、学外でのイベントやフィールドワークに参加する場合もあります。

COC に関するカリキュラムの流れ

カリキュラム	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
① 教育イベント「まちづくり提言コンペ」				
② 課題解決型授業（PBL）				
③ 地域志向型科目				
④ 教育イベント「地域フォーラム」				

- ① 全学生が参加する **1 年生の教育イベント**として、「基礎セミナー」において、名古屋市または瀬戸市にかかわる「**まちづくり提言コンペ**」を実施します。
- ② **課題解決型学習（PBL）**として、全学共通の《NGU 教養スタンダード科目》において、地域商業・歴史観光・減災福祉に関する「まちづくり学」「まちづくり演習」を開設するとともに、希望者は「上級まちづくり演習」で継続受講することも可能です。
- ③ 全学部で、地域を学習対象とした**地域志向型科目**を充実していきます。
- ④ 全学生が参加する **3・4 年の教育イベント**として、「演習」での課題研究の成果などを地域の方向けに発表する「**地域フォーラム**」を実施します。

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

COC+事業と2017年度のプログラム

「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」を踏まえ、地域と大学の連携をより深く進め、さらに地域での就業につなげるプログラムがCOC+（プラス）事業です。

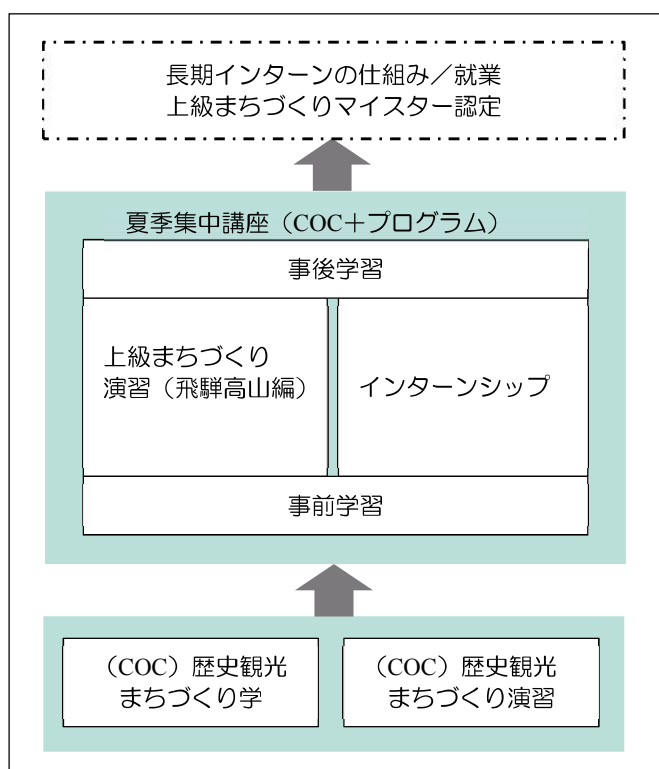
2017年度COC+プログラム

COC+のプログラムでは、大学COC事業で培った知識や経験を前段として、地域とともに将来の地域づくりを担う人材（上級まちづくりマイスター）を育成します。

2017年度は、名古屋学院大学がCOC事業で地域づくりの題材とする「歴史観光」分野で開講します。古くから観光地域づくりで先進的な岐阜県高山市における観光地域づくり人材育成プログラムです。

COC+のプログラムは、COC事業の「歴史観光まちづくり学」「歴史観光まちづくり演習」科目の単位を修得した学生または履修している学生が受講できます。名古屋キャンパスと瀬戸キャンパスの両方の学生が参加可能です。

高山市におけるCOC+プログラム「上級まちづくり演習」「インターンシップ」の流れと特徴



《プログラムの特徴》

- 将来的に観光産業をめざすなら、日本有数の観光地で国内外からも注目の高い高山市で、観光産業にかかわる実務者とともに実践的な演習を受けられます。
- 将来的にサービス産業をめざす学生にとって、単なるアルバイト目線ではなく、サービス産業従事者の視点をもつチャンスです。観光地ならではの宿泊産業の体験をとおして、サービス業におけるサービスとは何か、ホスピタリティとは何かを考え、表現するスキルが身につきます。
- 高山市には観光産業をはじめ、多くの分野の企業があります。飛騨高山や下呂などの出身の学生にとっては、自分の地域をよりよく知り、魅力を発見する機会になります。

マイスター認定制度

初級まちづくりマイスター

COCカリキュラムで開講中の「地域商業」「歴史観光」「減災福祉」の授業では、「まちづくり学」「まちづくり演習」の両方を履修し単位修得した学生に対し、「初級まちづくりマイスター」を認定します。

上級まちづくりマイスター

COC事業で初級まちづくりマイスターを認定された者のうち、「上級まちづくり演習」を履修し単位修得すること、かつ公的な社会的活動に従事したり公的資格の取得をした学生を対象に、「上級まちづくりマイスター」を認定します。

経済学部 経済学科

教育目標（学則第3条の2より）

経済学科は、経済の理論と実際を学び、社会で起きているさまざまな現象を読み解く力を涵養し、地域社会やビジネスに貢献できる国際感覚豊かな経済人の育成を教育目標とする。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

経済学部 に所属する学生は、学部のカリキュラムを履修、学修することを通して、以下の能力獲得が求められる。これに併せて、卒業に必要とされる所定の単位と要件を満たした学生には経済学部から学士(経済学)の学位が授与される。

知識・技能

- 1) 経済社会が抱える様々な課題に対する関心と問題意識を持つことができる。
- 2) 経済学の基礎的専門知識や分析ツールを使いこなすことができる。
- 3) 文献資料やデータを収集し、適切に処理することができる。

思考力・判断力・表現力

- 1) 社会を洞察するための論理的思考力をつけ、因果関係の把握や費用便益の比較考量ができる。
- 2) 政治・法律分野とのつながりを理解し、経済社会を多面的に捉えることができる。
- 3) 自らの意見・考えを他者に的確に伝え、コミュニケーション・議論の中で自らの改善に活かすことができる。
- 4) 経済社会の現実における課題を自ら発見し、経済学を基盤とした知識を実際の経済社会へ応用することができる。

主体性・多様性・協働性

- 1) 建学の精神である「敬神愛人」に基づき、他者に対する温かいまなざしを持って社会で活動することができる。
- 2) より良き経済人として、経済社会のルールを順守する倫理観を持つことができる。
- 3) 地域社会の求めることを的確に把握し、課題解決に向けて意欲と責任感をもって貢献していくことができる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施方針）

経済学部では、ディプロマ・ポリシーが示す能力獲得を目的として、次のような教育内容、教育方法、学修成果の評価の方針を掲げ、カリキュラム編成と授業実施を行う。カリキュラムの体系性、各授業科目とディプロマ・ポリシーの対応関係についてはカリキュラムマップ等で明示する。

教育内容

- 1) カリキュラムは、成熟した市民として必要な教養の涵養を目指し、専門知識だけに偏らない豊かな人間性を育てることを目的として《NGU 教養スタンダード科目》の学修を行い、経済社会で生きていくために必要な知識と技術を身につけるため、経済学部の専門科目である《基幹科目》、《展開科目》、《関連科目》を学修する。
- 2) 《基幹科目》においては、経済学理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」（いずれも必修科目）を配置し、教室での講義だけではなく、CCS 内の自学自習システムを予習復習に活用した授業運営を行う。また、2～4

年次には 20 名前後のクラスによるゼミナール（全て必修科目）を配置する。

- 3) «展開科目»においては、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法律学を含んだ多様な科目を設置する。個々の学生は、選択したコースの履修モデルを参考にして【経済理論と情報】、【応用経済と経済政策】、【比較経済と歴史】、【法制度と公共政策】の 4 つの領域から自由に選択する。各コースは、学修とキャリアとの関連を意識させることを意図して設定する。また、体系的・系統的な学習を促すため、科目のきめ細やかな学年配当を行い、履修コースに沿った科目履修をサポートする。
- 4) «関連科目»においては、「企業研究」のように現場見学を通して理論と実際との関連づけを行う科目や、約 80 の提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置する。また、GPA を基準に成績優秀者を対象として、大学院開講授業を受講できる「上級経済学」を配置し、より高度な学修が可能となる環境を整備する。

教育方法

- 1) カリキュラム全体を通して、学生の主体的な学習を促進するために、グループ・ディスカッションなどに取り組む学生参加型授業、フィールドワーク、大学を越えたゼミの交流（インターゼミ）をはじめとしたアクティブ・ラーニングを積極的に展開するよう努める。
- 2) 本学がこれまで重点的に取り組んできた ICT を用いた教育のメリットを最大限活かし、本学が独自に開発してきた CCS（キャンパス・コミュニケーション・サービス）を利用した双方向授業や反転学習を積極的に展開するよう努める。具体的には、ICT を用いた自習教材として、CCS 内に設置された「コア 6」において、毎月 60 問ずつ（定期試験月間を除く）の問題を学生に配信するとともに、「経済学部生のための基礎知識 300 題」を電子ブックで、関連問題を含めた 1000 題を自学自習システムで提供する。これらは授業においても適宜利用する。
- 3) 日本の中心に位置し、世界のものづくりを支える名古屋という地理的特性を踏まえ、特に専門科目において、世界から地域を、地域から世界を理解する能力を育てるための科目を充実させるよう努める。
- 4) 学年次に合わせた学生・教員全員参加の教育イベントと現場重視の調査・分析・提案を行う課題解決型授業(PBL)を組み合わせる段階発展型カリキュラムの趣旨を活かした科目の設置や運営を行うよう努める。
- 5) 2～4 年次ゼミナールでは、小規模クラスでのきめ細やかな学習指導を行う。さらに、ゼミ担任がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言を行う。
- 6) 経済学部での学習成果を総括するものとして、ゼミ担当教員の指導を受けて 3 年次末には研究報告書、4 年次末には卒業論文の提出を求める。その作成過程を通して、経済社会への鋭い問題意識と政策提言、専門知識に裏付けされた論理的文章を作成する能力とプレゼンテーションの技能を磨き、教員やゼミ生同士の議論の中で他者の意見を踏まえながら自己の考えを確立していく修練を積む。また、学部全体で行う「卒業研究発表会」は、卒業論文の外部審査とともに、学生相互が互いの研究成果を発表・交流する機会とする。

学修成果の評価

- 1) 各科目の評価は、原則として平常点および期末試験等による総合評価(100 点満点)により行われる。
- 2) 思考力・判断力・表現力・態度等については、それぞれの授業科目のなかで必要に応じて達成度指標(ルーブリック等)を設けて段階的に評価したうえで総合評価に加える。
- 3) 4 年間の学修成果の最終的なまとめとして、卒業論文(必修)の作成・発表を重視し、ディプロマ・ポリシーに適合するかどうかについて評価する。

アドミッション・ポリシー（入学受入方針）

求める学生像

経済学部教育理念は、建学の精神である「敬神愛人」を基盤にしながら、経済の理論と実際を学び、社会で起きているさまざまな現象を読み解く力を涵養し、地域社会やビジネスに貢献できる国際感覚豊かな経済人を育成することである。

そのため、経済学部は、上記の教育理念に共鳴する学生を求め、具体的には、以下のような学生を広く受け入れる。

- 1) 経済社会に興味を持つ者
- 2) 経済学に関する専門知識及び幅広い教養の修得に積極的である者
- 3) 主体的に学習して社会に貢献しようとする熱意ある者

入学時までに身に付けるべき知識、能力等

- 1) 高等学校の教科に関する基礎的・基本的な知識・技能
- 2) 基礎的・基本的な知識・技能に基づき、経済社会に関する自分の考えをまとめ、他者に伝えるための思考力・判断力・表現力
- 3) 教科の学習にとどまらず、経済社会に関する多様な学習や活動を経験することによる、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

入学者選抜

経済学部は、大学入学時までに培われた確かな基礎学力、経済学科への適性、多様な学習や活動を通じて身に付けた能力や意欲等を、多面的・総合的に評価することを入学者選抜の基本的な方針としている。

1) 学力試験

本学独自の学力試験または「大学入試センター試験」の成績に基づき、経済学部経済学科での学修に必要な基礎学力を有すると判断した者を選抜する。

2) 推薦試験

書類審査、面接、小論文等により、高等学校での成績や諸活動（特別活動、部活動、生徒会活動、取得資格等）の状況、経済学科への適性や意欲等を評価する。

3) AO 試験

本学経済学部第1志望者を対象とし、書類審査（調査書等・事前課題）および講義・試験・ディスカッション等により、専攻学問分野の修得に必要な基礎的理解力・考察力・協調性・表現能力等を評価する。

カリキュラムの概要

カリキュラム（教育課程）は、多様な科目群・分野の中のさまざまな授業科目によって構成され、それらすべてを一覧できるリストのことを「授業科目表」（詳細は、P70を参照）といいます。その構成と授業科目表は、カリキュラムの基本ですから、それらをよく理解し、履修登録、受講そして単位修得にのぞんでください。必修科目と表記された科目は、卒業にあたって必ず単位修得しなければならない科目です。経済学科のカリキュラムは、《NGU 教養スタンダード科目》と《専門科目》に大別され、さらに《専門科目》は《学科基幹科目》、《学科展開科目》および《学科関連科目》という3つの科目区分によって構成されます。カリキュラムの概要を理解することは、学修する上で大切な第一歩です。カリキュラムをよく理解して有意義な学びをスタートさせてください。

《専門科目》は、《学科基幹科目》、《学科展開科目》、《学科関連科目》によって構成されています。また、オープン科目として他学部《専門科目》の一部履修を認め、経済学だけではない幅広い専門知識の修得をめざすことができます。

- a) 《学科基幹科目》には、経済学理論の基礎を修得させる「ミクロ経済学入門」「マクロ経済学入門」（いずれも必修科目）を配置し、教室での講義だけではなく、CCS 内の自学自習システムを予習復習に活用した授業運営をおこないます。また、2～4 年次には 20 名前後のクラスによるゼミナール（すべて必修科目）を配置し、小規模クラスでのきめ細やかな学習指導をおこないます（詳細は、P64「演習科目について」を参照）。さらに、ゼミ担任がクラスアドバイザーを兼務し、学生生活全般にわたる指導・助言をおこなうことになります。さらに、経済学を学ぶにあたっての基礎的科目と研究活動をおこなうための基本的手法を身につける科目群が用意されています。
- b) 《学科展開科目》には、経済学のより専門性の高い科目のみならず、政治学や法学を含んだ多様な科目を配置しています。個々の学生は、選択した履修コースを参考にし、＜経済理論と情報＞、＜応用経済と経済政策＞、＜比較経済と歴史＞、＜法制度と公共政策＞の 4 つの領域から自由に選択できます。履修コースは、学修とキャリアとの関連を意識させることを意図して設定されています（詳細は、P66「履修モデル」を参照）。また、体系的・系統的な学習を促すため、科目のきめ細やかな学年配当をおこない、履修コースに沿った科目履修をサポートしています。
- c) 《学科関連科目》には、「企業研究 1・2」のように現場見学をとおして理論と実際との関連づけをおこなう科目や、約 85 の提携大学での留学を前提とした国際理解科目群を配置しています。また、GPA を基準に成績優秀者を対象として、大学院開講授業を受講できる「上級経済学」を配置し、より高度な学修が可能となる環境も整備しています。

1 年生では、「基礎英語 1・2」および「英会話 1・2」が必修科目となっています。2 年生では、各自の希望により、次の 8 つのグループの中からひとつ（2 科目 2 単位分）を選択しますが、卒業要件として必ず単位の修得が求められます。よく考えて科目の選択をしてください。

2 年次にどの科目を履修するかは、1 年次の秋学期に CCS で希望調査をおこないます。教務課より CCS で連絡がありますので、確認漏れがないよう注意してください。

選択必修語学科目一覧（注意：卒業要件として必ず、同一科目の 1・2 の履修が必要）

- | | |
|------------------|-------------|
| ● 実用英語演習 1・2 | ● フランス語 1・2 |
| ● 情報英語演習 1・2 | ● スペイン語 1・2 |
| ● TOEIC 英語演習 1・2 | ● 中国語 1・2 |
| ● ドイツ語 1・2 | ● 韓国語 1・2 |

英語圏への長期留学希望者や、英語のさらなるブラッシュアップを希望する学生は、英語科目（「実用英語演習 1・2」など）の継続的学修が望ましいと考えられます。英語圏以外の人々の考え方や生活風習について知りたい学生は、他の言語の学修にトライしてみてください。

カリキュラム上の特色

経済学科では、地域社会で活躍する国際感覚あふれる経済人の養成をコンセプトに、経済学に関する専門知識やそれをめぐる幅広い知識と視野を修得し、現代経済社会におけるさまざまなものごとを見極める視線を育てるため、次のような特色ある教育課程（カリキュラム）を編成しています。

a) 基礎科目と専門科目を厳選化

導入教育や基礎教育を重視し、経済に関する専門知識を学修するための基礎づくりとなる科目を厳選し、1・2 年次に集中的に配当しています。

b) 経済学に関する専門知識を学修できる教育課程の体系化

経済学の「専門科目」を「企業経済」、「金融ファイナンス」、「グローバル経済」、「公共政策」の4つの履修コースに体系化しています。これら履修コースに従えば、将来の自分の目標に近づくための効率的な学修ができます。より高度な内容の授業を希望する学生には、本学大学院修士課程の授業に参加する「上級経済学1～4」が用意されています。

c) 幅広い知識を養う多彩な関連科目の配置

多様化・複雑化する現代の経済社会におけるさまざまな問題を理解し、解決するためには、経済学の専門知識にとどまらず、それらに関連する法律、政治、行政など、より多彩な知識が必要です。このため、政策関連系や法律系など、多様な分野の多彩な授業科目を配置しています。

d) 社会に役立つ実践的教育の重視

実践性の高い授業科目、および専門的な知識や能力を実際に活用するための授業科目を配置しています。語学演習では実践的能力の養成を重視し、その他、インターンシップや留学を積極的に支援するカリキュラムとなっています。情報教育ではコンピュータ操作だけでなく、プレゼンテーション能力も養成します。演習科目では、自分の意見を表明し、議論できるディベート力を養い、問題解決型思考力を育成します。

経済学部での学習成果を総括するものとして、指導教員のもとで4年次末には卒業論文の提出が求められます。その作成過程をとおり、経済社会への鋭い問題意識と政策提言、専門知識に裏づけされた論理的文章を作成する能力とプレゼンテーションの技能を磨き、教員や学生同士の議論の中で他者の意見を踏まえながら自己の考えを確立していく修練を積むことになります。また、学部全体でおこなう「卒業研究発表会」は、卒業論文の外部審査とともに、学生相互が互いの研究成果を発表・交流する貴重な機会です。

また経済学部は、学生の課外学習などを促進するために、さまざまな機会や教材を提供し、各科目から吸収された知識や考え方を相互に連携させ、経済社会に対する政策提言に活かせるよう工夫しています。

- ICTを用いた自習教材として、CCS内に設置された「コア6」において、毎月60問ずつ（定期試験月間を除く）の問題を学生に配信し、その達成度合いを競いあいます。
- 経済学と深いかわりのある資格として、経済学検定試験（ERE）ミクロ・マクロの受験を奨励しています。
- カリキュラムマップを作成し、ディプロマ・ポリシーに掲げた10項目の能力から、みなさんの学修進行度合いを示す工夫もおこなっています。

演習科目について

1) 演習科目とは

経済学科では、1年次の「基礎セミナー」、2年次の「専門基礎演習」、3・4年次の「専門演習」をまとめて演習科目と呼びます。これら科目は、少人数のゼミナール形式の科目であり、みなさんに対して4年間一貫のゼミナール教育をおこなうことになります。指導教員の名前をとって、自分は「〇〇ゼミ」に所属していると一般的にいいます。

みなさんは学修のそれぞれの段階で、指導教員のもと、自らの関心を広げ、課題を発見し、研究や討論を通じて問題解決しながら、自分の能力の向上に努めてください。また、4年間一貫のゼミナール教育で、人格的な交流をとおり、多くの友人関係が育成されるとともに、指導教員との間のコミュニケーションも密接なものとなります。

ゼミナールは4年間の学生生活の中核で、大きな思い出となるものです。

基礎セミナー

1年次配当の「基礎セミナー」は、導入・基礎教育となる必修科目です。授業は少人数でおこなわれ、大学で学ぶ基本的な能力を修得するとともに、2年生以上の演習科目の準備段階となります。「基礎セミナー」では、

- 大学での学修が、高等学校までとどのように違うのか、体験をとおり、実感として理解する。

- 大学生活における自己管理方法および、アカデミックスキルを身につける。
- 本学の歴史および建学の精神を理解し、大学への帰属意識をもつ。

という共通の目標を掲げています。具体的には、以下のような指導がおこなわれます。

- a. 大学での学び方
- b. 文献資料の調査・検索のしかた
- c. レジューメ・レポートの作成のしかた
- d. 報告・発表やディスカッションの工夫

専門基礎演習

2 年次配当の「専門基礎演習」は、1 年次に身につけた次のような技法を、学問に有機的に結びつけることを目的としています。

- 「日本語表現」で培った日本語能力
- 「デジタル・プレゼンテーション」で修得したプレゼンテーション技術
- 「基礎セミナー」で体験したゼミナールでのディベート手法

特に、3 年次以降の研究テーマに沿った学修ならびに「専門演習」の準備として、以下のような 5 つの力を身につけることをめざします。

- a. 課題を発見する力
- b. 自分を表現する力
- c. とともに議論する力
- d. 問題を解決する力
- e. 実践や行動する力

また、効果的な教育のため、少人数で実践的なトレーニングをおこないます。さまざまな問題について議論し、話し合いながら、社会への関心を深めテーマを見い出す場となります。講義で学んだ専門的な知識も活かしながら、少しずつ主体的な課題認識能力や問題解決能力の向上をはかることができれば、次年度からの「専門演習」に取り組む準備ができたといえるでしょう。

専門演習

3・4 年次の 2 年間にわたる「専門演習」では、大学での学修の総仕上げをおこないます。まず 3 年次では、みなさんが自ら関心をもつ分野について専門的な研究を深めます。キャンパスを出てフィールドワークをおこなうゼミもあります。

また就職の準備として、社会人の基本的な姿勢なども 3・4 年生のゼミを通じて学びます。コミュニケーション力、文章作成能力、問題解決力などを実践的に身につけます。ゼミ合宿や社会見学・ゼミ旅行などを通じて、ゼミの先輩や後輩といった関係から授業だけでは学べない体験をするゼミもあります。さらに 3 年終了時には、研究報告書の提出が求められます。

4 年次には、就職活動とともに卒業論文という大きな課題があります。「専門演習」の指導教員のもとで、自らの関心に沿って研究成果を卒業論文としてまとめます。

2) 演習科目の履修にあたって

「専門基礎演習」は、1 年次秋学期に各教員の演習概要をみなさんに提示し、希望調査をおこなって所属を決定します（事前登録）。そして、2 年次春学期に履修登録をすることにより、そのゼミに加入したことになります。この事前登録の手続をおこなわないと、2 年次春学期からの「専門基礎演習」を履修できません。希望調査時の募集要項をよく読み、日程などを間違えないよう、確実に手続きをおこなってください。

「専門演習」も、2 年次秋学期に各教員の演習概要をみなさんに提示し、希望調査をおこなって所属を決定します（事前登録）。そして、3 年次春学期に履修登録をすることにより、そのゼミに加入したことになります。この事前登録の手続をおこなわないと、3 年次春学期からの「専門演習」を履修できません。4 年次春学期も同様に履修登録を完了することで、そのゼミに継続して所属することが確定します。希望調査時の募集要項をよく読み、日程などを間違えな

いよう、確実に手続きをおこなってください。

なお、3年次に「専門演習」を履修するにあたっては、次のことに注意をしてください。

「専門演習」の履修について

「専門演習」の所属は、学生への希望調査をもとに成績・面接などによって選抜し決定します。なお、その履修にあたっては、次の2つの要件をクリアしていなければなりませんので、十分に注意してください。

- ① 「基礎セミナー」の単位を修得していること
- ② 2年次の終了時点で、40単位以上を修得していること

さらに、「専門演習」(3・4年次通年開講、12単位)は、3年次が4単位、4年次が8単位として計算します。3年次の研究報告書を提出しないと、4年次の「専門演習」を履修できません。4年次の8単位は授業を4単位、卒業論文を4単位として換算しています。「専門演習」(4年)修了時に一括して12単位を付与します。

「専門基礎演習」は、1年次配当の「基礎セミナー」と継続していません。「専門演習」も、2年次配当の「専門基礎演習」と継続していません。「専門基礎演習」や「専門演習」の教員を選択する場合、現在の指導教員と異なる教員にも必ず目を向けてください。教員の中には、特定の演習科目(例えば、「専門基礎演習」)のみを開講している場合があります。全教員が、「基礎セミナー」、「専門基礎演習」、「専門演習」の3つの演習科目をすべて担当しているとはかぎりません。

3) その他

「基礎セミナー」「専門基礎演習」「専門演習」のゼミナール制度は、同時にクラスアドバイザー制度(クラス担任制)としても機能します。ゼミの指導教員は、担当クラスのアドバイザーとして、所属学生に対して学修上のことはもちろん、学生生活上の問題についてもきめ細かな指導をおこないます。

履修モデル

経済学科では、自分の希望や進路に応じた系統的な学修ができるように、履修モデルとして以下の4つのコースを設けています。各コースは、次のような人材の育成を目的としています。

- A. 企業経済 ・ ・ ・ ・ ・ 現代経済を理論的・実証的に分析できるビジネスパーソン
- B. 金融ファイナンス ・ ・ ・ ・ ・ ファイナンスなどの実地的知識をもつ金融・財政のエキスパート
- C. グローバル経済 ・ ・ ・ ・ ・ 国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン
- D. 公共政策 ・ ・ ・ ・ ・ 各地域において政策立案し施行することができるエキスパート

コース(履修モデル)の選択・振り分けと履修指導について

経済学科の教育課程(カリキュラム)では、自由度の高い「ゆるやかな」コース制を採用しています。各コースは、履修モデルとして提示され、みなさんの学修目標や進路を明確にし、かつ学修意欲を高めることができるよう、次の方法で運営されます。

- 1年次秋学期後半に、各自が希望するコースを選択します。
- 基本的にはみなさんの希望を尊重するかたちでコースの所属を決めますが、各コースの人数に極端な偏りがある場合には、1年次の成績(GPA評価)などによって第2希望のコースに振り分ける場合もあります。
- 2年次以降は各自が所属するコースの履修モデルを基本に科目履修をおこなって、学修し、「専門演習」(3・4年次)での指導を受けて、卒業論文に仕上げます。

A. 企業経済コース：現代経済を理論的・実証的に分析できるビジネスパーソン

複雑化する現代社会を見とおすために経済理論は有用な武器となります。経済理論はときに私たちの常識を覆すような新鮮なものの見方を与えてくれます。このコースはもっともオーソドックスな経済理論を修得し、その現実への応用を学ぶものです。また経済理論が現実をうまく説明しているかどうかを検証するために、コンピュータを利用し経済データを処理する方法も学びます。

このコースでは、経済に対する基本的な考え方を身につけ、さまざまなデータを駆使して、的確な判断力をもつビジネスパーソンを養成することを目的としています。公務員・資格試験科目に必要な経済理論を修得したい人、経済系大学院への進学を考えている人にも向いたコースです。

このコースでは、以下のような授業科目を中心に選択してください。

学科展開科目	統計学、経済数学、ミクロ経済学 1・2、計量経済学、経済データ分析、政治経済学、現代経済学、産業組織論、企業経済論、労働経済学、現代日本経済史、日本経済論、経済英語、法学概論、民法、商法、会社法、企業研究 1・2
学科関連科目	

B. 金融ファイナンスコース：ファイナンスなどの実知的知識をもつ金融・財政のエキスパート

ファイナンスとは、企業や個人、政府などの資金調達ならびにその管理を意味します。個人レベルでは年金や保険などを通じた生涯の生活設計、資産運用など、また企業における資金調達や資産運用などを、さらに財政政策・金融政策など、政府の政策にまで広範な領域にまたがります。近年マス・メディアでは「M&A（企業の合併買収）」、「年金問題」、「地方分権」といった言葉がよく話題にのびります。このような出来事は私たちの生活面――資産運用や税金・年金のしくみ、あるいは公共サービスのありかた――の変化となって現れます。これらが与える影響を理解し、さらに個人の生涯にわたる資産運用、生活設計を考えるためには、金融や財政の基礎理論とその制度的な枠組みを理解し、その実際の応用力を養うことが重要です。

このコースでは生活に密着した経済学の応用分野を学ぶことができます。将来、銀行・証券会社・保険会社、公共機関への就職を考えている人、またファイナンシャル・プランナーなどの資格取得をめざしている人にも向いています。

このコースでは、以下のような授業科目を中心に選択してください。

学科展開科目	マクロ経済学 1・2、統計学、経済数学、計量経済学、経済データ分析、財政学、金融論、経済政策論、公共経済学、都市経済学、都市政策論、現代ファイナンス、国際金融論、地方財政論、社会保障論、商法、会社法、企業研究 1・2
学科関連科目	

C. グローバル経済コース：国際感覚豊かで、グローバルに活躍するビジネスパーソン

私たちは経済のグローバル化が進むなかに生きています。とりわけ日本は貿易や資本取引を通じて世界各国と相互依存の関わりがあり、日本経済で起こるさまざまな現象は世界経済との関連なしに語ることはできません。

このコースは、多様な世界経済のあり方に問題意識をもち、国際感覚あふれた人材を養成するために、国際貿易や国際金融の理論・制度を学ぶことを目的としています。また、このコースのもうひとつの目的は、どのような歴史をたどって経済社会がグローバル化してきたのか（時間的視点―経済史）、また世界各国の経済社会はどのように異なるのか（空間的視点―比較経済）という点を理解することです。

こうした基礎知識をもとに、例えば、日本の自動車産業は、なぜ強い国際競争力をもつのか、豊かな国とそうでない国に分かれるのはなぜか、アジアの経済発展はどのような道をたどってきたのか、といった問題を考えていきます。

将来広く世界を相手に仕事をしていきたいと考える人に最適なコースです。時代と空間を越えて視野を広げ、経済社会の多様性を学びたい人に勧めるコースです。

このコースでは、以下のような授業科目を中心に選択してください。

学科展開科目 学科関連科目	ミクロ経済学 1・2、マクロ経済学 1・2、計量経済学、経済データ分析、政治経済学、国際経済学、開発経済学、資源経済学、資源・エネルギー政策、環境経済学、エコロジー経済論、経済史、経済社会学、比較経済論、西洋経済史、欧米経済論、開発経済学、経済英語
------------------	--

D. 公共政策コース：各地域において政策を立案し施行することができるエキスパート

価値観の多様化の中で、地域経済にとって何が大切であり、必要であるのかを見極めること、またそれに応じた政策立案をすることは簡単ではありません。冷静な頭脳によって地域経済の抱える問題を洞察し、暖かい心でその改善案をつくることを学んでいてもらいたいと思います。一方で、政策立案をしても、それだけで世の中が良くなるわけではありません。世の中で役に立つ政策とは何か、経済学だけではなく、法律や政治の視点から学んでいけるようプログラムがつくられています。

このコースでは、公共部門や NGO で活躍したい人材を養成するため、座学だけではなく、自ら実践することで将来に備える教育をおこなっていきます。

このコースでは、以下のような授業科目を中心に選択してください。

学科展開科目 学科関連科目	財政学、経済政策論、公共経済学、都市経済学、都市政策論、地方財政論、社会保障論、法学概論、憲法、民法、行政法、行政学、政治理論 1・2、地域政策概論、まちづくり政策論、地域活性化研究 1・2、公共政策演習 1・2
------------------	--

卒業要件

卒業要件単位の修得

経済学部のカリキュラム表にもとづいて必要な単位数（124 単位）以上を修得しなければなりません。

卒業要件単位数

上記の、学則第 16 条に規定する単位数（124 単位）を卒業要件単位数といいます。それぞれの単位数には必修科目を含みます。授業科目表と照らして区分ごとの要件をよく確認し、4 年間の履修計画をしっかりと立ててください。

NGU教養 スタンダード科目	キリスト教		4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発		6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	14単位以上	
	教職※ ¹			
	言語とコミュニケーション		8単位以上	
	情報理解		2単位以上	
学科基幹科目 (必修)				20単位
学科基幹科目 (基礎)				54単位以上
学科展開科目	経済理論と情報、応用経済と経済政策 比較経済と歴史、法制度と公共政策			
学科関連科目	キャリア、留学、大学院			
自由選択科目(フリーゾーン)※ ²				16単位以上
合計				124単位以上

※¹ 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※² NGU教養スタンダード科目、学科基幹科目、学科展開科目、学科関連科目、
オープン科目を問わない自由な選択

授業科目名		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
キリスト教					
キリスト教概説	2		1	AV1101	
キリスト教文化	2		1	AV1102	
キリスト教と文学		2	2	AV2301	
キリスト教と文化		2	2	AV2302	
キリスト教倫理		2	2	AV2303	
キリスト教史		2	1	AV1301	
自己理解と自己開発					
基礎セミナー	2		1	AW1101	
発展セミナー		2	1	AW1301	
キャリアデザイン1a		2	1	AW1302	
キャリアデザイン1b		2	1	AW1303	
キャリアデザイン2a		2	2	AW2301	
キャリアデザイン2b		2	2	AW2302	
キャリアデザイン3a		2	3	AW3301	
キャリアデザイン3b		2	3	AW3302	
能力開発1		2	1	AW1601	
能力開発2		2	1	AW1602	
能力開発3		2	1	AW1603	
ボランティア学		2	1	AW1304	
ボランティア演習		2	1	AW1305	
インターンシップ1		2	1	AW1306	
インターンシップ2		2	1	AW1307	
社会的教養					
人間理解	哲学		2	1	AX1301
	哲学史		2	1	AX1302
	心身関係論		2	1	AX1303
	日本文学		2	1	AX1304
	日本文学史		2	1	AX1305
	心理学概論		2	1	AX1306
	現代日本文化論		2	1	AX1307
	比較文化入門		2	1	AX1308
	多文化共生論		2	1	AX1309
	文明論		2	1	AX1310
	宗教と人間		2	1	AX1311
	聖書と人間		2	1	AX1312
	キリスト教人間学		2	2	AX2301
	死生学		2	1	AX1313
臨床心理学		2	1	AX1314	
社会理解	社会学入門		2	1	AX1315
	宗教社会学		2	1	AX1316
	比較宗教学		2	1	AX1317
	日本国憲法		2	1	AX1318
	現代社会と法律		2	1	AX1319
	暮らしと法律		2	1	AX1320
	現代社会と経済		2	1	AX1321
	経済の仕組み		2	1	AX1322
	企業と社会		2	1	AX1323
	国際関係論入門		2	1	AX1324
	国際政治学		2	1	AX1325
	国際社会入門		2	1	AX1326
	国際社会問題		2	1	AX1327
	現代社会と教育		2	1	AX1328
平和学入門		2	1	AX1329	
人権と社会		2	1	AX1330	
自然理解	数学		2	1	AX1331
	数理科学		2	1	AX1332
	基礎統計学		2	1	AX1333
	実用統計学		2	1	AX1334
	化学		2	1	AX1335
	化学と社会		2	1	AX1336
	生物学		2	1	AX1337
	地球科学概論		2	1	AX1338
	地球物理学概論		2	1	AX1339
	人類学		2	1	AX1340
	物理学		2	1	AX1341
	科学史		2	1	AX1342
	生命倫理		2	1	AX1343

授業科目		単位数		配当 年次	ナンバ リング
		必修	選択		
歴史文化理解	日本史		2	1	AX1344
	日本思想史		2	1	AX1345
	日本文化史		2	1	AX1346
	中国文化入門		2	1	AX1347
	英米文化入門		2	1	AX1348
	文化人類学入門		2	1	AX1349
	世界の近現代史		2	1	AX1350
	世界史		2	1	AX1351
	考古学入門		2	1	AX1352
	陶芸論		2	1	AX1353
環境理解	陶芸演習		2	1	AX1354
	環境科学		2	1	AX1355
	生態学		2	1	AX1356
	地域生態論		2	1	AX1357
身体理解	地球環境学		2	1	AX1358
	健康の科学		2	1	AX1359
	スポーツの科学		2	1	AX1360
	スポーツ初級A		1	1	AX1361
	スポーツ初級B		1	1	AX1362
	スポーツ中級A		1	2	AX2302
	スポーツ中級B		1	2	AX2303
	スポーツ上級A		1	3	AX3301
地域理解	スポーツ上級B		1	3	AX3302
	地域商業まちづくり学		2	1	AX1363
	歴史観光まちづくり学		2	1	AX1364
	減災福祉まちづくり学		2	1	AX1365
	地域商業まちづくり演習		2	1	AX1366
	歴史観光まちづくり演習		2	1	AX1367
	減災福祉まちづくり演習		2	1	AX1368
	上級まちづくり演習		2	2	AX2304
言語とコミュニケーション					
日本語表現		2		1	AJ1101
日本語表現上級			2	1	AJ1301
基礎英語1		1		1	AJ1102
基礎英語2		1		1	AJ1103
英会話1		1		1	AJ1104
英会話2		1		1	AJ1105
実用英語演習1			1	2	AJ2201
実用英語演習2			1	2	AJ2202
情報英語演習1			1	2	AJ2203
情報英語演習2			1	2	AJ2204
TOEIC英語演習1			1	2	AJ2205
TOEIC英語演習2			1	2	AJ2206
ドイツ語1			1	2	AJ2207
ドイツ語2			1	2	AJ2208
フランス語1			1	2	AJ2213
フランス語2			1	2	AJ2214
スペイン語1			1	2	AJ2219
スペイン語2			1	2	AJ2220
中国語1			1	2	AJ2225
中国語2			1	2	AJ2226
韓国語1			1	2	AJ2231
韓国語2			1	2	AJ2232
手話入門			1	1	AJ1302
手話基礎			1	1	AJ1303
情報理解					
情報処理基礎		2		1	AZ1101
情報概論			2	2	AZ2301
教職					
教職論			2	1	BQ1401
教育原理			2	1	BQ1402
教育心理学概論1			2	1	BQ1403
教育心理学概論2			2	1	BQ1404
教育制度論			2	1	BQ1405
特別活動論			2	2	BQ2401
教育の方法と技術			2	2	BQ2402
道徳教育論			2	2	BQ2403
生徒・進路指導論			2	2	BQ2404
教育相談			2	2	BQ2405

経済学科 専門科目

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学科基幹科目	必修				
	ミクロ経済学入門	2		1	EK1101
	マクロ経済学入門	2		1	EK1102
	専門基礎演習	4		2	EK2101
	専門演習	12		3・4	EK3101・EK4101
	基礎				
	統計学入門		2	1	EK1301
	経済史入門		2	1	EK1302
	日本経済入門		2	1	EK1303
	経済数学入門		2	1	EK1304
	財政学入門		2	2	EK2301
	金融論入門		2	2	EK2302
	国際経済学入門		2	2	EK2303
	デジタル・プレゼンテーション		2	1	EK1305
	データ表現技法		2	1	EK1306
	アカデミックスキルズ		2	3	EK3301
	経済テーマ演習		2	3	EK3302
学科展開科目	経済理論と情報				
	統計学		2	2	EK2304
	経済数学		2	2	EK2305
	ミクロ経済学1		2	2	EK2306
	ミクロ経済学2		2	2	EK2307
	マクロ経済学1		2	2	EK2308
	マクロ経済学2		2	2	EK2309
	計量経済学		2	2	EK2310
	経済データ分析		2	2	EK2311
	経済学史		2	3	EK3303
	政治経済学		2	3	EK3304
	現代経済学		2	2	EK2312
	経済学特殊講義		2	1	EK1307
	応用経済と経済政策				
	財政学		2	2	EK2313
	金融論		2	2	EK2314
	国際経済学		2	2	EK2315
	経済政策論		2	2	EK2316
	産業組織論		2	3	EK3305
	企業経済論		2	3	EK3306
	労働経済学		2	2	EK2317
	公共経済学		2	3	EK3307
	都市経済学		2	3	EK3308
	都市政策論		2	3	EK3309
	現代ファイナンス		2	3	EK3310
	国際金融論		2	3	EK3311
	地方財政論		2	3	EK3312
	社会保障論		2	3	EK3313
	資源経済学		2	2	EK2318
	資源・エネルギー政策		2	3	EK3314
	環境経済学		2	2	EK2319
	エコロジー経済論		2	3	EK3315
	比較経済と歴史				
	経済史		2	2	EK2320
	経済社会学		2	2	EK2321
	比較経済論		2	2	EK2322
	日本史概論		2	1	EQ1401
	現代日本経済史		2	2	EK2323
	日本経済論		2	2	EK2324
	外国史概論		2	1	EQ1402
	西洋経済史		2	2	EK2325
	欧米経済論		2	3	EK3316
	人文地理学概論		2	2	EQ2401
	自然地理学概論		2	2	EQ2402
	開発経済学		2	3	EK3317
	地誌学概論		2	2	EQ2403
	経済英語		2	2	EK2326

授業科目名		単位数		配当年次	ナンバリング
		必修	選択		
学科展開科目	法制度と公共政策				
	法学概論		2	2	EK2327
	憲法		2	2	EK2328
	民法		2	2	EK2329
	商法		2	2	EK2330
	会社法		2	2	EK2331
	行政法		2	2	EK2332
	行政学		2	2	EK2333
	政治理論1		2	2	EK2334
	政治理論2		2	2	EK2335
	地域政策概論		2	1	EK1308
	まちづくり政策論		2	3	EK3318
	地域活性化研究1		4	2	EK2336
	地域活性化研究2		4	3	EK3319
学科関連科目	キャリア				
	現代経済事情		2	1	EK1309
	企業研究1		2	2	EK2337
	企業研究2		2	2	EK2338
	企業経営特殊講義		2	2	EK2339
	公共政策演習1		2	1	EK1310
	公共政策演習2		2	1	EK1311
	留学				
	国際理解1		2	1	EK1601
	国際理解2		2	1	EK1602
	国際理解3		2	1	EK1603
	国際理解4		2	1	EK1604
	国際理解5		2	1	EK1605
	国際理解6		2	1	EK1606
	国際理解7		2	1	EK1607
	国際理解8		2	1	EK1608
	国際理解9		2	1	EK1609
	国際理解10		2	1	EK1610
	国際理解11		2	1	EK1611
	国際理解12		2	1	EK1612
	大学院				
	上級経済学1		2	4	EK5601
	上級経済学2		2	4	EK5602
	上級経済学3		2	4	EK5603
	上級経済学4		2	4	EK5604

選択必修科目

8分野から1分野を選択し、1と2を履修しなければなりません。

実用英語演習1・2	フランス語1・2
情報英語演習1・2	スペイン語1・2
TOEIC英語演習1・2	中国語1・2
ドイツ語1・2	韓国語1・2

卒業要件

NGU教養スタンダード科目	キリスト教	4単位以上	34単位以上
	自己理解と自己開発	6単位以上	
	社会的教養	人間理解、社会理解、自然理解 歴史文化理解、環境理解 身体理解、地域理解	
	教養 ^{※1}		
	言語とコミュニケーション	8単位以上	
学科基幹科目 (必修)	情報理解	2単位以上	20単位
学科基幹科目 (基礎)			54単位以上
学科展開科目	経済理論と情報、応用経済と経済政策 比較経済と歴史、法制度と公共政策		
学科関連科目	キャリア、留学、大学院		
自由選択科目(フリースelection) ^{※2}			16単位以上
合計			124単位以上

※1 教職課程加入者のみ履修可。8単位までは社会的教養の単位とすることができる。

※2 NGU教養スタンダード科目、学科基幹科目、学科展開科目、学科関連科目、オープン科目を問わない自由な選択

オープン科目（こどもスポーツ教育学科、リハビリテーション学部を除く）

現代社会の諸問題はさまざまな学問分野が絡み合っており、学部の枠を越えた幅広い学際的な知識と能力が必要です。そこで、幅広い視野と柔軟な思考力を兼ね備えた人材を育成するため、他学部が開講する《専門科目》を卒業要件単位として履修できるオープン科目制度を設けています。

多くの学部で専門教育科目の一部をオープン科目として他学部に公開するとともに、履修したオープン科目の単位を卒業所要単位として認定しています。オープン科目を学ぶことにより、学びの視野を広げ、専門分野の知識をいっそう深めることができます。

なお、オープン科目を履修する場合は、自分が所属する学部において必要な科目履修に支障をきたさないよう、授業時間割、履修上限単位数などに十分な注意を払うようにしてください。

オープン科目対象科目

- オープン科目は、各学部で指定された科目（開放科目）にかぎられます。
- オープン科目は、入学した年度によって異なります。履修を希望する場合は、該当する入学年度の「オープン科目（他学部履修科目）一覧」（毎年3月中旬頃、CCS 掲示板に掲示します）を確認の上、CCS で該当する科目のシラバスを照会し、担当者、曜日・時限、講義内容などを確認してください。また、授業教室については、授業を公開する学部の時間割を参照してください。
- 自分の履修するカリキュラムにある科目と同一名称の科目がオープン科目にある場合、その科目は履修することはできません。
- オープン科目は年度によって変更となる場合があります。

※ なお、スポーツ健康学部こどもスポーツ教育学科・リハビリテーション学部はオープン科目の対象としていません。

履修可能学部・履修条件・履修可能単位数

学部	履修条件	履修可能単位数
経済学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること ・2年次：30単位以上、3年次：60単位以上、4年次90単位以上を修得していること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
現代社会学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
商学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	制限なし
法学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.5以上であること	1年間で4科目8単位まで履修可能 4年間で12単位まで
外国語学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2単位、年間4単位まで
国際文化学部	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	1年間で2科目4単位まで履修可能 4年間で8単位まで
スポーツ健康学部 スポーツ健康学科	・2年生以上であること ・前年までのGPAが2.0以上であること	半期2科目まで

単位認定

《自由選択科目（フリーゾーン）》の科目として認定します。

履修方法

オープン科目の履修希望者は以下の手順で申し込みをおこなってください。

- ① 時間割開示時に、オープン科目一覧表で履修希望科目を決定する。
- ② 教務課窓口または瀬戸キャンパス総合事務部にて、「オープン科目履修願」を記入し、提出する（オープン科目については CCS から直接履修登録できません）。
なお、受けつけ期間はオープン科目一覧表とともに CCS に掲示します。受けつけ期間以外は一切受けつけできません。
- ③ 受けつけ期間終了後、履修希望人数を集計、調整をおこない履修登録画面へ反映させます。

注意事項

- 履修を検討したい科目のシラバスを必ず読んでから受講してください。
- オープン科目の履修はセメスターごとの履修制限単位数の規則に従います。
- オープン科目対象科目の開講曜日時限は、科目を提供している学部の日割にて確認してください。
- すべての科目に受講者数の定員を設けています。履修は、科目を提供している学部の学生を優先しますので、必ずしも履修願に記入した科目すべてが履修できるとはかぎりません。
- オープン科目の履修の取り消し、変更は一切できません。

他大学との単位互換

愛知学長懇話会の単位互換

愛知学長懇話会には、愛知県内すべての4年制大学が加盟しています。愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に加盟している大学に所属する学生は、他の大学で開講されるさまざまな科目を履修することができ、かつ、履修した科目が在籍する大学の単位として認められる制度です。愛知県内の大学に在学するメリットのひとつとしてぜひ活用してください。

なお、単位互換向けに開放される科目の受講料は無料ですが、科目によっては実験・実習・研修などの実費が必要となる場合があります。詳細は、愛知学長懇話会のホームページ（<http://aichi-gakuchou.jimu.nagoya-u.ac.jp/syllabustop>）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	- 各学部2年生以上 (以下、外国語学部で追加する資格) - 履修時に、学部卒業要件における修得単位数の合計が40単位以上 - 上記修得単位のGPAがおおむね2.5以上
履修期間	1セメスターまたは1学年とし、再応募することができる。
履修可能単位数	1セメスターあたり6単位、もしくは1学年あたり12単位までとする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	学則第17条の定めにより他の大学における授業科目の履修として、60単位を超えない範囲で単位を認定する。

※ 3月頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。

大学連携による「知域」拡大プロジェクトの単位互換

北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトは、加盟する6大学の開放科目を、eラーニングシステム「TIES（タイズ）」を利用して受講し、大学の単位として認められる制度です。詳細は、北海道・関東・東海・近畿の大学連携による「知域」拡大プロジェクトのホームページ（http://www.tiesnet.jp/link/renkei_gp）を確認してください。

注意事項

派遣履修生資格	各学部2年生以上
履修期間	相手先の連携大学で履修することのできる授業科目の開講学期とする。
履修可能単位数	1年度につき10単位以内とする。ただし、同一期間内で本学における履修とあわせて本学「履修規程」第6条の履修制限内とする。
認定可能単位数	本制度により認定できる単位数は合計30単位を上限とする。ただし学則第17条から19条に規定のある単位認定とあわせて、全体で60単位の範囲内とする。

※ 4月上旬頃に、CCSにて希望者の募集をおこないます。